



東洋大学

ISSN 1881-0276

# ライフデザイン学研究

Journal of Human Life Design

第 10 号

東 洋 大 学

ライフデザイン学部

# 目次

## 巻頭言

ライフデザイン学研究第10巻発刊を迎えて—ライフデザイン学の今日的意義— .....	杉田記代子	3
---	-------	---

## 退職者のメッセージ

ライフデザイン学部に10年間在職させていただいて.....	菊池 義昭	4
-------------------------------	-------	---

## 論文

認知症高齢者グループホームの選択基準に関する研究 —家族介護者へのヒアリング調査からの考察—.....	辻 泰代	5
ベテラン精神科ソーシャルワーカーのクライアントとの『かかわり』形成プロセス .....	國重 智宏	19
韓国における精神障害者地域生活支援の展開 —泰和キリスト教社会福祉館を中心に—.....	的場 智子	51
東北三県凶作で岡山孤児院が収容した長期在院児への養護実践の歴史的役割（4） —1919（大正8）と1920（同9）年に退院した東北児を中心に— .....	菊池 義昭	65
「気のいい火山弾」論 .....	高橋 直美	109
科目「保育内容演習」の教授目標と内容の研究.....	高山 静子	125
製作コーナーを基盤にした4歳児保育の意義とその実践 —同調的な遊びから目的志向的な遊びへの発展に向けた援助— .....	高橋 健介／中山 昌樹／中田 幸子／猪越 恵美	139
10代母親への妊娠期からの心理的支援に関する一考察 —携帯電話端末を活用した支援の分析— .....	中原 美恵／上田 美香／唐田 順子	157
In their own words: informant recommendations for English communication by sport coaches, trainers, and instructors .....	LAMBERT Nicholas	175
聖女テレサの愛の矢の突きさしに関する神学的試論.....	菊池 章太	199
高齢者座位体操の立案根拠とプログラムコンセプト —椅子座位からの立ち上がり動作と歩行動作への貢献を目標とした プログラム立案の一例—.....	岩本紗由美	213
日本における身体障がい者スポーツ指導者養成事業の発足と発展（1966-1972） .....	金子 元彦	225
ラット関節軟骨および関節包の構造に及ぼす後肢不動化と尾部懸垂の影響の比較 .....	鈴木 健太／中世古梨奈／大迫 正文	237
ラット脛骨の海綿骨における骨梁の配列状態と血管走行の関連性 .....	中世古梨奈／鈴木 健太／大迫 正文	251

<b>研究ノート</b>	
イギリスにおけるインクルーシブ教育の実際—Education Villageの視察から— .....是枝喜代治	265
日本と海外におけるバリアフリー、ユニバーサルデザインの系譜に関する比較研究 —日本・中国・韓国を中心に—.....高橋 儀平	283
<b>総 説</b>	
キャンプにおける牛乳パックの有効活用について.....坂口 正治	299
<b>ライフデザイン学部プロジェクト研究報告</b>	
特別養護老人ホーム入居待機者の療養過程に関する研究 .....吉浦 輪 浅野いずみ／辻 泰代	307
住民との共同作成による体操プログラムの作成と実施容易性 .....神野 宏司 坂口 正治／松尾 順一／齊藤 恭平／野村 豊子／岩本紗由美	313
ドイツのスポーツクラブに関する調査研究 —子ども及び高齢者を対象としたプログラム及び指導法を中心に— .....鈴木 智子 神野 宏司／嶋崎 博嗣／松尾 順一	317
東洋大学ライフデザイン学部紀要編集内規.....	327
東洋大学ライフデザイン学部紀要査読制度内規.....	330
東洋大学ライフデザイン学部紀要原稿執筆要領.....	332

# 東洋大学ライフデザイン学部紀要編集内規

平成17年4月1日

施行

改正 平成19年4月1日 平成21年4月1日 平成27年4月1日

## (目的)

第1条 東洋大学ライフデザイン学部紀要『ライフデザイン学研究』(以下「紀要」という。)はライフデザイン学部(以下「学部」という。)の教育と研究を促進し、教員を中心としたそれらの成果発表の場として、さらに「ライフデザイン学」の形成とその発展に寄与することを目的とし、関連の論文、研究ノート、書評、研究展望、学部教育に関する諸活動報告等を掲載発表する。

## (刊行物と編集)

第2条 学部で刊行する紀要はライフデザイン学部紀要編集委員会(以下「委員会」という。)内規第4条による。

## (投稿資格)

第3条 紀要に投稿できる者は原則として学部の専任教員とする。ただし、以下の場合には、委員会の判断で受け入れることができる。

- (1) 委員会において特別に依頼する場合
- (2) 学部専任教員が代表である共同執筆原稿の場合
- (3) 学部非常勤講師から希望があった場合
- (4) 学部生の執筆で学科または専攻の推薦を得たもの
- (5) 大学院生の執筆で専攻の推薦を得たもの

## (原稿の種類)

第4条 この紀要に投稿できる原稿の種類は、次のとおりとし、未発表の原稿に限ることとする。

種類	内容
論文	オリジナルな研究成果をまとめたもの(査読対象とする)
研究ノート	研究の中間報告、覚書および新しい研究方法についての報告、翻訳(投稿者の依頼があった場合、査読対象とする)
書評	書籍、文献の批評、紹介
研究展望	それぞれの研究分野の成果をまとめたもの、研究動向を展望したもの
学部活動記録	当該年度の学部活動を報告する内容のもの
学部教育活動への取り組み	学部での教育内容を評価するもの

大学院生の論文（概要）	大学院生の研究成果
学部生の論文（概要）	学部生の学習成果
総説	ライフデザイン学全般もしくは個別領域にかかわる総括的論述
資料	研究上価値ある資料あるいは新出資料などの紹介・解説
研究報告	社会実践にかかわる活動の研究報告、作品制作の報告、作品解説など
学部プロジェクト研究報告	学部プロジェクト研究の成果を要約して報告するもの

（二重投稿の禁止）

- 第5条 前条に該当し投稿された第6条に規定する原稿であっても、同一の原稿を本学紀要以外の他紙に投稿することはできない。また二重投稿が判明した場合は掲載を中止する。
- 2 当該原稿を他紙に投稿する場合は、委員会より正式に不採用の連絡を受けた後に行う。

（申し込みと締め切り）

- 第6条 投稿申し込みと締め切り期限は、年1回の刊行の場合は次の各号のとおりとし、年複数回の刊行の場合は、その都度委員会が別に定める
- （1）執筆計画の把握のため、別に定める「紀要執筆計画アンケート」を7月末までに委員会が集約する。
- （2）原稿は、11月第1週水曜日までに委員会に提出する。

（執筆要領）

- 第7条 原稿の執筆にあたっては、別に定める紀要執筆要領による。

（原稿の査読と掲載の可否）

- 第8条 査読は別に定める「ライフデザイン学部紀要査読制度内規」に基づき行う。
- 2 掲載の可否は、第1項の結果に基づき、委員会が決定し、投稿者へ結果を連絡する。
- 3 投稿数の制限は定めないが、同一号に原稿が複数採択された場合、次号に繰り延べて掲載することがある。

（補筆と修正）

- 第9条 委員会は、必要に応じて、執筆者に補筆や修正を求めることができる。

（原稿の返却）

- 第10条 投稿された原稿は、執筆者に返却する。

（配布先等）

- 第11条 紀要の配布先は、毎年委員会が定める。

- 2 執筆者には、完成した紀要を電子媒体にて1部配付する。
- 3 学部ホームページに電子情報として掲載することができる。また管理サーバー等の掲載条件が可能な範囲でデータは蓄積する。

(原稿料など)

第12条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。

(著作権等)

第13条 本学部が編集刊行する紀要の編集著作権は本学部に帰属する。

- 2 紀要に掲載された個々の著作物の著作権は、当該著作物の著作権者に帰属する。
- 3 紀要に掲載された個々の著作物について、著作権侵害、名誉毀損、またはその他の紛争が生じた場合、当該著作物の著作者を当事者とする。

(改廃)

第14条 本内規の改廃は、教授会の承認を得るものとする。

附 則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

## 東洋大学ライフデザイン学部査読制度内規

平成17年4月1日

施行

改正 平成19年4月1日 平成27年4月1日

### (目的)

第1条 本内規は、東洋大学ライフデザイン学部（以下「学部」という。）の刊行する『東洋大学ライフデザイン学研究』（以下「紀要」という。）と掲載される個々の著作物の質の向上と保証を図ることを目的とし、査読制度により審査を行う。

### (査読の対象)

第2条 査読は、論文および投稿者より審査依頼がなされた研究ノートについて行う。査読された原稿についてはその旨を明記する。

### (査読の内容)

第3条 審査原稿について、東洋大学ライフデザイン学部紀要編集委員会（以下「委員会」という。）の定めた学部内および学部外各1名の査読員による体裁、学術的内容の審査を行い委員会に結果を報告する。

2 東洋大学ライフデザイン学部紀要編集内規第4条の査読対象としない原稿について、委員会が定める学部内の校正委員1名により、体裁、内容の校正について委員会に助言を行う。

### (査読員の要件)

第4条 学部内査読員は、学部専任教員とする。

2 学部外査読員は、その著作物の内容についての専門領域における学部外の専門家又は学識者とする。

### (査読員の委嘱)

第5条 第3条について、委員会は査読員、校正委員を選出し、学部長により委嘱する。

### (査読員の非公開)

第6条 学部内査読員については、いかなる理由であっても公開しない。

2 学部外査読員については、紀要に採択の上、掲載されるときに限り各著作物の巻末に査読員を掲載する。

### (審査)

第7条 2名の査読員は、執筆者の原稿について速やかに査読の上審査を行い、ABCで評価する。Aは「採択（軽微な字句の修正を含む）」、Bは「一部修正の上採択」、Cは「不採択」を意味する。又、その結果を委員会に報告する。

- 2 2名の査読員がAA、AB、BBの評価の場合は査読審査合格とし、掲載可とする。BC、CCの場合は査読不合格とし、掲載不可とする。ACの場合はさらに第3者に査読を依頼し、A又はBの場合は掲載可とし、Cの場合は不合格とする。
- 3 査読審査結果は委員長より通知する。

(修正)

第8条 委員会は、上記の審査結果に基づき、採用論文について執筆者に修正を求めることがある。それ以外は審査後の修正は認めない。

(審査料)

第9条 学部外査読員には次の査読審査料を支払う。

- (1) 原稿1本につき10,000円とする。

(改正)

第10条 本内規の改廃は、教授会の承認を得るものとする。

附則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

附則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。



# 東洋大学ライフデザイン学部紀要原稿執筆要領

平成17年4月1日

施行

改正 平成19年4月1日 平成27年4月1日

## 1. 使用言語

使用言語は、特に制限しない。ただし、印刷等にあたり特別の技術を有する言語、査読委員の選出に困難を来す言語、その他の事情を有する言語については、事前に編集委員に相談すること。また母語以外を使用する場合には当該言語のネイティブ・スピーカーによる校閲を受けたうえで提出することとする。

## 2. 執筆者

投稿資格者は、東洋大学ライフデザイン学部紀要編集内規第3条に定める者とし、共著者がいる場合は氏名の右肩に\*印を付けて示すこととする。

## 3. 要旨及びキーワード等

原稿の本文が日本語の場合には、欧文（英・独・仏のいずれか）の表題、著者名、要旨及びキーワードをつけること。欧文要旨は100～150ワード程度とする。

原稿の本文が英語又はその他の言語の場合には、各言語の要旨、キーワードのほかに、日本語の表題、著者名、要旨及びキーワードをつけること。日本語要旨は600～800字程度とする。

欧文要旨は、当該言語のネイティブ・スピーカーによる校閲を受けることとする。

## 4. 本文及び脚注・注

本文は原則として横書きとし、英語の場合はダブルスペースで記述する。原稿用紙の大きさはA4サイズを標準とする。長さは日本語の場合はA4用紙30枚を超えない程度とする（いずれの場合も図表を含むものとする）。他の言語の場合もこれらに準ずる。以上の内容に依りがたい時は編集委員と協議して決めることとする。

脚注は、本文中の該当箇所の右肩に一連番号を打ち、注そのものは当該ページの下部に記入する。各章毎、あるいは本文末に注をまとめる場合も、注番号は当該箇所の右肩に一連番号で示すこととする。

提出時に総字数を示すこととする。

## 5. 参考文献

参考文献は、原則として以下の要領で記載する。

### (1) 和文の参考文献

#### ① 雑誌

著者名、表題、雑誌名、巻数（号数）、（刊行された西暦年）

② 単行本

著者名、署名、発行所、ページ数、（発行された西暦年）

③ 編著書の中の1章又はシリーズの中の1巻

著書名、章名、編者（又は監修者）名、書名、発行所、ページ数、（刊行された西暦年）、又は著書名、書名、編者（又は監修者）名、シリーズ名、第XX巻、発行所、ページ数

④ その他の参考文献については、上記①、②、③に準ずる。

(2) 欧文等の参考文献の場合

上記(1)に準ずる。ただし、書名などについては、主な単語（Word）、固有名詞などは大文字で書き始めること。

6. 図表

- ① 図は著者の作成したものをそのまま印刷するので、黒インクで浄書（トレース）すること（ワープロ印刷でも可）。トレース等が困難な場合にはトレース料は自己負担とする。
- ② 図は、なるべく白紙に黒インクで大きめに書くこと。又、各図は一枚毎に別々の用紙に書くこと。
- ③ 図中の文字数字等は写植されるので、正確に書くこと。大文字と小文字、イタリック体、ゴチック体などの違いにも注意すること。
- ④ 図（写真を含む）及び表には必ず名称を付けること。
- ⑤ 図表の番号は、それぞれが本文に現れる順にしたがって、通し番号で付けること。又、本文中の各図表の挿入箇所は明確に指示すること。
- ⑥ 各図表の作成に使用した資料あるいは文献は、必ず注として明記すること。

7. 原稿の提出

原稿はテンプレートに添って入力したものをハードコピー3部及び電子データで提出するものとする。電子データには、著者名を記述する。写真や図表を原稿に組み込まないで別途提出する場合は、挿入位置を指定すること。

8. 改廃

本要領の改廃は、ライフデザイン学部紀要編集委員会の議を経て行うものとする。

附則

この要領は平成17年4月1日から施行する。

附則

この要領は平成19年4月1日から施行する。

附則

この要領は平成27年4月1日から施行する。

ライフデザイン学研究第10号 編集委員

井上 治 代 (健康スポーツ学科)

本 名 靖 (生活支援学科)

高 橋 健 介 (生活支援学科)

水 村 容 子 (人間環境デザイン学科)

**Editorial Board**

**INOUE Haruyo (Department of Health Care and Sports)**

**HONNA Yasushi (Department of Human Care and Support)**

**TAKAHASHI Kensuke (Department of Human Care and Support)**

**MIZUMURA Hiroko (Department of Human Environment Design)**

**ライフデザイン学研究 第10号**

2015年3月31日発行

発行者 東洋大学ライフデザイン学部

〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1

TEL048(468)6311(代) FAX048(468)6320

印刷所 株式会社 美巧社

# Journal of Human Life Design

NO.10

Contents

<b>SUGITA Kiyoko</b> Prefatory Note	3
<b>Messages from Retired Persons</b> <b>KIKUCHI Yoshiaki</b>	4
<b>Articles</b> <b>TSUJI Yasuyo</b> Study on criteria for selection of the dementia elderly person group home —Consideration of the interview investigation with a family caregivers—	5
<b>KUNISHIGE Tomohiro</b> The Process for Establishing “kakawari” Between Expert Psychiatric Social Workers and Clients	19
<b>MATOBA Tomoko</b> Development of the Community Support Systems for People with Mental Illness in Republic of Korea —Based on Taiwha Christian Social Community Center—	51
<b>KIKUCHI Yoshiaki</b> Historic roles of Okayama Orphanage’s Residential Care of Long-term Cared Children in The Great Famine of Northern Japan (4) : focusing on orphans discharged of three Tohoku Prefectures from 1919 to 1920	65
<b>TAKAHASHI Naomi</b> A Study of Lively Volcanic Bullet	109
<b>TAKAYAMA Shizuko</b> The study of the subject “Contents of Early childhood Care and Education”	125
<b>TAKAHASHI Kensuke, NAKAYAMA Masaki, NAKADA Sachiko, INOKOSHI Megumi</b> Meaning of Early Childhood Education and Care to Have Thought Much of the Making Corner in the 4-Year-Old Class —Guidance for Development of Purposeful Play from Sympathetic Play—	139
<b>NAKAHARA Yoshie, UEDA Mika, KARATA Noriko</b> A study on psychological support from the pregnancy period to the teenage mother —Analysis of the support that utilized the E-mail for the teenage mother—	157
<b>LAMBERT Nicholas</b> In their own words: informant recommendations for English communication by sport coaches, trainers, and instructors	175
<b>KIKUCHI Noritaka</b> Ensayo teológico sobre la trasverberación de la flecha amorosa a santa Teresa	199
<b>IWAMOTO Sayumi</b> Rationale and concept for program planning of sitting exercise for elderly people —Case report: the contribution to standing up and walking motion—	213
<b>KANEKO Motohiko</b> A start and development of the people with a physical disability sports leader training business in Japan (1966-1972)	225
<b>SUZUKI Kenta, NAKASEKO Rina, OHSAKO Masafumi</b> Comparison of effects of hind-limb immobilization and suspension on structure of articular cartilage and capsule of tibiae in rats	237
<b>NAKASEKO Rina, SUZUKI Kenta, OHSAKO Masafum</b> Relationship between arrangements of bone trabeculae and courses of blood vessels of tibial cancellous bone in rats	251
<b>Research Notes</b> <b>KOREEDA Kiyoji</b> Inclusive Education in the United Kingdom: An Investigation of the ‘Education Village’	265
<b>TAKAHASHI Gihei</b> Comparative Study of the History of Barrier-free Design and Universal Design in Japan and Overseas Countries —Japan, China and South Korea—	283
<b>Review</b> <b>SAKAGUCHI Masaharu</b> The effective use of milk cartons in a camp	299
<b>Research Project Reports in the Faculty of Life Design</b> <b>YOSHIURA Toru, ASANO Izumi, TSUJI Yasuyo</b> A Study on Care for the Elderly on the Waiting List for Special Nursing Homes for Aged	307
<b>KOHOHI Hiroshi, SAKAGUCHI Masaharu, MATSUI Junichi, SAITO Kyohei, NOMURA Toyoko, IWAMOTO Sayumi</b> Development of Physical Exercise Program with Community-Dwelling Elderly	313
<b>SUZUKI Tomoko, KOHOHI Hiroshi, SHIMAZAKI Hirotsugu, MATSUI Junichi</b> A Study on German Sports Clubs —Focusing on the Courses and Teaching Methods for Children and Elderly People—	317

Published by Toyo University, Faculty of Human Life Design  
Asaka, JAPAN